

平成29年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 平成30年1月18日（木） 13：28～14：43

場 所 事務局第1会議室

出席者 山口学長、佐藤理事、齊藤理事、渡邊理事、
小川委員、奥野委員、佐々木委員、利根委員、平本委員

欠席者 内海委員、土肥委員

陪席者 齋藤監事、小川監事、尾崎学長特別補佐、中林副学長、武井副学長、堀田副学長、
川又副学長、伊藤人文社会科学部研究科長、市橋教養学部長、柳澤経済学部長、
細渕教育学部長、重原工学部長

○ 前回議事要録の確認

平成29年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、了承された。

○ 報告事項

1 平成30年度予算の内示について

渡邊理事から、資料2に基づき、平成30年度予算の内示について報告があった。

2 平成28年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

川又副学長から、資料3に基づき、平成28年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があった。

☆ 学生支援では、学生の成長を助け、生きる力を身に付けられるようにするため、入学から卒業・就職まで学生を一貫してサポートする体制が当然必要になる。そのためには、組織間の連絡調整がとても大事であるため、本学においては総合キャリアセンターSUの設置が行われ、大きな成果をあげている。同様に、別の分野においても必要となることから、是非、総合的に学生を支援するような仕組みでインセンティブ的に進め、引き続き、より大きな成果を上げていただきたい。

△ 1つには、学生の声を吸い上げ、今まで以上に改善して行こうと思っている。

△ 他に、今年度は検討中である留学生と日本人学生を統一的に扱う「多文化キャンパス創造プロジェクト」がある。埼玉大学は首都圏にあり、学内には多くの留学生が在籍している。ただ残念なことに、教育については留学生と日本人学生が別々となって授業を受けていることがあるので、留学生と日本人学生との交流の場が少ないため、グローバルキャンパスになっていない点を見直す議論を進めつつある。平

成 28 年 9 月に設置した学生センターについては、国際関係、就職関係、学務関係などの組織を一つの場所に集中させたが、留学生を特別扱いするわけにもいかないため、統合キャリアセンター S U を含め、全ての学生に対して支援や教育など一元化する意見がある。もう一つ、実現には至っていないが、教育組織と研究組織を分離して教員組織を一本化することである。例えば、学際的な分野の研究を行う教員の配置が可能になるなど、埼玉大学の将来像を検討する際に出てくる考えでもあるので、平成 30 年度の早い段階において、将来構想の中で教員組織の一元化の実施について、しっかりと議論していきたい。

○ 審議事項

1 平成 30 年度予算編成方針について（案）

渡邊理事から、資料 4 に基づき、平成 30 年度予算編成方針について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ この予算編成方針について異論はないが、「教員配分経費」は、教育費は学生一人当たりの単価を、研究費及び新任教員交付金は教員一人当たりの単価を設定し編成するとされており、一律の単価設定になっている。また、「部局長裁量経費」は部局共通の金額を設定し編成すると記載されているが、教育研究の内容及各部局で取り扱うべき事項等にかなり違いがあるのに一律の単価設定で平等という考え方について伺いたい。

△ 予算が潤沢であれば差別化して活躍する関係者については、多く予算を配分しメリハリを付けたい。しかし、全く余裕のない財政の中で最低予算額を設定し、配分している。教員一人当たりの単価は担保できる最低金額であるため、一律の予算配分となっている。部局長裁量経費については、全学予算委員会で各部局の要求に基づき、審議するため、メリハリを付けることは可能である。記載されている単価については、最低限の金額を担保するという意味の予算編成であると理解していただきたい。

2 国立大学法人埼玉大学教職員給与規則及び国立大学法人埼玉大学教職員の初任給、昇格、昇給等の基準の一部改正について（案）

渡邊理事から、資料 5 に基づき、国立大学法人埼玉大学教職員給与規則及び国立大学法人埼玉大学教職員の初任給、昇格、昇給等の基準の一部改正について説明があり、審議の結果、承認された。

次いで、山口学長から今後の審議予定について、人事院勧告に伴う退職手当の引き下げについては、次回経営協議会の開催前に審議する必要があるため、書面審議等で審議の提案の可能性がある旨、説明があった。

○ その他

1 埼玉大学の最近の動向について

山口学長から、資料6に基づき、平成30年度予算：組織整備分と基幹経費化による機能強化の取組について説明があった。

次いで、机上配付資料に基づき、2017年12月に学内限定で公表した「IR Report」による、埼玉大学の現状について説明があった。

続いて、本学卒業生である根岸右司氏（洋画家）が平成29年度日本芸術院の新会員として選出されたことに伴い、その輝かしい栄誉と功績を讃えて、埼玉大学フェローの称号を授与することとした旨説明があった。

☆ この「IR Report」に記載してある世界大学ランキングを発表した Times Higher Education (THE) や Quacquarelli Symonds (QS) の調査者は誰なのか、またどのように調査したのか。

△ どのような基準で誰をどのように選んでいるかわからないが、THE等から調査依頼のメールが届き回答する。世界各国の主要な研究者をピックアップし、Web上で評価をしている。当然その評価者は自分の大学の評価はできない。

☆ もし、このように発表された世界大学ランキングが評価の軸になるとすれば、埼玉大学の先生方は、もっと海外にネットワークを持ち、特に海外の方から評価されるような立場になれば良いと思う。教育の評価を上げるとすれば、もう少し学業以外で海外との連携を続けていくと全体的に教育の評価が上がると思う。

△ ご指摘のとおりで、例えば国際性の評価で国際共著論文が増えれば、教員同士のネットワークが広がり、いずれは、評価者になる可能性が高い。世界の研究者と常に繋がる努力を続けることは重要であり、研究力強化でも極めて重要である。また、教育力に関しては英語ベースなので、日本の大学は言語の問題があり、不利になることがある。そのため、留学生を増やし、帰国後に評価者になる可能性があるため、留学生教育について考えることも大切であり、留学生を増やすためにも教員同士が知り合いになった方が有利である。

☆ 客観的なデータがあればレポートとして作りやすいが、今後、このようなレポートを継続して発行するならば、どのようなものを基礎資料として考えているのか。

△ 基本的にファクトブックと称する基礎データ集を作っている。それは教育情報の公開や、そのようなところで要求されていることを網羅している。だから、今までの枠組みではない考え方で新たな展開を企画する場合、再度、データ収集することになる。

☆ IR機能の充実は、エビデンスに基づいた、大学にとって極めて重要になっていく。そして、「IR Report」が示されることによって、教職員は意思決定する際に効果が大きいと思う。取り上げ方によってかなり影響力があるため、上手く活用しながら

大学全体の評価に繋がる取り組みを今後期待している。

- △ 「IR Report」を学内限定で教職員にネット上で配布した際、ある教員から、外部に出せる内容の部分を公開したら良いのではないかという意見があった。しかし、公開した場合、内容の受け止め方は人それぞれ違うので、気をつけなければいけないため、公開するのは難しい。基本的に「IR Report」の公開は学内限定で続けていこうと思っている。

2 次回日程（平成30年3月29日（木））

山口学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員の都合を調整したい旨の連絡があった。